



第2670地区

宿毛ロータリークラブ会報

■会長	筒井 大八	■職業奉仕委員長	小栗 学
■幹事	西田 教世	■社会奉仕委員長	竹葉 良仁
■SAA	小栗 学	■国際奉仕委員長	立田 雅弘
■クラブ奉仕委員長	松本 茂	■広報委員長	小松 広行

■例会日：毎週木曜日	12:30～13:30	■事務所	〒788-0003
■例会場：宿毛市幸町	秋沢ホテル		高知県宿毛市幸町 6-43
URL	http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/		TEL 0880-63-3416
E-Mail	sukumorc@mb.gallery.ne.jp		FAX 0880-63-3417

例会報告 第2473回 平成27年5月21日(木曜日) 天気：晴れ

- 例会司会：保田副SAA
- 開会点鐘：筒井会長
- Rソング：奉仕の理想
- ゲスト：元宿毛市土木課課長 岡崎匡介様

四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

■会長報告 筒井会長

大島桜公園に先日記念碑を設置しました。6月20日には記念誌の納品の予定です。最終例会を楽しみにしていますので宜しくお願いします。

■幹事報告 西田幹事

- ガバナー事務所より：人道的補助金専門家グループについて
- 四万十RCより：例会変更のお知らせ
- “社会を明るくする運動”宿毛地区実施委員会より：実施委員の就任及び委員会の開催について

2015-16年度短期交換留学生の面接が終了。中村RCからの推薦学生が決定しました。

欠席届 16名

■委員長報告

大島桜公園担当委員会 竹田委員長

5月17日(日)大島桜公園にロータリーの記念碑を設置しました。大変素晴らしい記念碑です。かなり雑草も生えてきましたので24日(日)に作業を行いますのでご協力をお願いします。

■プログラム 竹葉企画委員長

元宿毛市土木課課長 岡崎匡介様 宿毛市の将来像



ロータリークラブ会員の皆様、平素は宿毛市の行政推進にご協力、ご支援を頂き誠にありがとうございます。父の在籍中には皆さんに大変可愛がっていただき、本当にありがとうございました。また、本日は私にお話をさせていただき、機会を与えていただきました

ことは、まことに光栄なことと感謝申し上げます。

宿毛市の将来像について、宿毛市の行政職員として本年3月まで勤務しておりました経験をもとに、自分なりにお話をさせていただきたいと思っております。

未来のお話をさせていただく前に、昨年年制60周年を迎えた宿毛市のこれまでの歩みと、私の勤務経験を織り交ぜながら、振り返ってみたいと思っております。

宿毛市は、昭和29年3月に宿毛町・小筑紫町・橋上村・平田村・山奈村・沖の島村の2町4村が合併し、人口約32,500人でスタートしました。その後、学校・保育園や市役所等の建築物、道路・農地や水道等の生活基盤等が整備され、昭和48年に鶴来島地区が、今まで自家発電機で時間制により供給されていた電気が、柏島から沖ノ島を経由し鶴来島に至る海底ケーブルの設置によりフルタイムで利用できるようになりました。

日本全体は高度成長期を迎え自動車・家電製品等が一般家庭に普及し、生活環境が大きく変わってまいりました。一方、宿毛市でも農業においては圃場整備や機械化等による生産性の向上、林業においては国有林等の木材の搬出が盛んに行なわれる中、個人の山林においてもヒノキや杉等の植林が行われるようになり、漁業においては従来の漁業からハマチを中心とした養殖業が行なわれるようになり、活気があふれておりました。

私は、昭和53年大学卒業と同時に宿毛市に帰り、市役所の臨時職員を経て昭和57年に採用され、本年3月まで30数年間お世話になりました。担当した業務は、50年代は水道施設の更新、60年代は高知西南中核工業団地の造成、平成に入りますと公共下水道事業の認可手続き、市役所業務へのコンピュータ導入、平成10年以降は国民体育大会開催に向け宿毛市総合運動公園の整備、後半にはアメリカ海軍艦船入港対応、平成20年以降は高速インターネット環境構築のための光ケーブル設置、楠山地区への携帯用鉄塔の設置、消防救急無線のデジタル化等を担当させていただきなど、充実した仕事をさせていただきました。

私の在職中、宿毛市では、鉄道整備に合わせて宿毛駅周辺の土地区画整理事業が実施され、平成9年10月に土佐くろしお鉄道宿毛線が開通、平成10年には中筋川ダムが竣工、平成11年には一部供用開始された宿毛湾港池島岸壁に「ばしふいっくびいなす」が入港、平成14年にはよさこい高知国体の開催に合わせ、間～平田の高速道路が開通、宿毛の市街地においては公共下水道が稼働開始しました。平成15年には、第3セクター「西南地域ネットワーク スワンテレビ」が放送開始されました。平成16年には、宿毛佐伯フェリーが運航を停止しましたが、年末には別会社として運行が再開されました。平成17年には、宿毛駅に列車が衝突する事故が発生しました。平成18年から平成22年の間に3隻の

アメリカ海軍の艦船が入港し、皆さんを驚かせましたことは記憶に新しいことと思います。近年は、大型のインフラ整備として現在工事が進んでおります宿毛湾港池島地区の「第2防波堤」が平成28年度に、高規格道路「中村宿毛線」が平成31年度に完成予定となっております。また、一時中断しておりました「横瀬川ダム」も平成31年度完成に向けた取組みがされております。

さてこれからが本題となりますが、宿毛市の将来には課題と希望があり、課題を解決していく中で希望につなげていく必要があると考えております。

まず、課題としては、東日本大震災の経験を生かした南海トラフ地震に備えた防災対策があると思います。まず津波対策として沿岸部に避難路や避難場所があげられると思いますが、平成26年度中にほぼ整備が完了していることから、今後は発災時に住民自らが行動できる避難訓練等の実施が必要となってまいります。

また、宿毛市は、沿岸部において地震による地盤沈下が想定されており、国・県等と連携する中で、本年度から長期浸水対策の取組みが実施される予定となっております。

次に、学校施設等の建築物や橋梁等の道路施設に代表される公共施設の老朽化対策があります。他市町村も同様ですが、財政状況の厳しい中、改築や補修による長寿命化等により、実施期間は長くなりますが、安全で安心な生活環境の確保に向けた取組みがなされております。その他、少子化対策や地域経済の活性化等に対する対応につきましても、皆さんと共に汗をかく中で、解決に向けた取組みをしまいたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

一方希望といたしましては、窪川～四万十間の高規格道路が着々と整備が進んでおり、四国8の字ネットワークもやっと現実味を感じることができるようになりました。5月15日国土交通省の平成27年度事業計画には掲載されておりましたが、宿毛～愛南間の高規格道路につきましても早期の事業着手に向けた取組みがなされておまして、事業着手も間近ではないかと思っております。これまでの地理的なハンディが、徐々にではありますが解消されることにより、多くの分野で活性化されるという希望が出てまいりました。

一つには、生鮮食料品である野菜や魚等を大規模消費地への搬送量の拡大、木材や工業製品の効率的な搬送が可能となることによるコスト削減、宿毛湾港と連携した海運、松山・高知の両空港との連携による新たなネットワークの出現等が期待され、ひいては雇用の拡大にもつながる可能性も出てくるのではないかと思います。

二つ目としては、空港からの時間短縮効果による、観光客等の増加が見込まれます。これまで移動時間の長さから提案もできなかった四国西南地域の観光資産・運動施設の連携による滞在型の観光メニューを創設することにより、修学旅行等の誘致やスポーツ合宿やスポーツ大会等の誘致もこれまで以上に可能となります。また、高速道路と連携した「道の駅」や娯楽施設等の建設についても、検討できるようになるのではないかと考えております。

三つ目としては、商業施設へのアクセス時間の短縮による日常生活の利便性の向上、医療・福祉分野においても各施設との連携やサービスの向上が見込まれるのではないかと思います。

このように、地域の根幹となる高速道路という一つのインフラが整備されることによる効果を希望的な見地から述べさせていただきました。

もう一つ忘れてはならないのが、政治・産業・文化の広いジャンルで活躍した偉人を輩出した歴史を持つまちであることです。

本人の能力はもとより、地元での教育環境の充実、都市部での支援者とのつながり等により、偉人の排出されるに至る背景があったのではないかと思います。特に活躍の土壌は人的なつながりが大きな要素としてあったのではないかと感じておまして、現在いろいろな分野活躍されております方々との繋がりを生かし、教育レベルの向上等に生かしていければと考えております。

皆さんが「ロータリークラブ」で実践されております奉仕活動はもとより、人的ネットワーク交流が、地域活性化にもつながるのではないかと感じておまして、皆さんの活動を参考とする中で、人材育成や人的交流を推進し活性化につなげていければと思います。

宿毛市の現在人口は約21,500人で、この60年間に約11,000人の減となっております。この現実をどうとらえるかについて、先日5月20日の高知新聞の「土佐あちこち」というコラムに、宿毛支局長の笹島記者がこのように述べております。「現在の県の人口は、80年前の人口と同じくらいに戻っている。楽観はしていないが、地域に一定数の人が住み続けられる仕組みを考え、つくることだと思う。」私もこのコラムのように、近年の人口減を悲観するのではなく、ポジティブな要素として考え、地方都市がみんなで支えあう中で安心して暮らしていくためには、今何をすべきかについて考えていきたいと思っております。

ここまで、宿毛市の将来像の一端について思いつくままにお話しさせていただきましたが、一人ではなく人とのつながりを大切に一市民としてこれからも活動できればと考えておりますので、よろしくご協力いたします。

ご清聴ありがとうございました。

大島桜公園宿毛ロータリークラブ記念碑



■出席報告

59. 25%